

# 平成30年度 本部・各施設事業計画書

## 経営理念

1. わが法人は、『自由』『共生』『博愛』を基本理念とし、利用者一人ひとりに、地域・経済社会への参加と自立した生活をめざしたライフステージを提供し、悠生で安心できるくらしを追及します。
2. 各事業が提供する福祉サービスは、利用者及びその家族、ならびに地域住民の期待とニーズに合致した適正かつ質の高いサービスを提供し、もって地域福祉の向上に寄与します。
3. 民間社会福祉法人として、健全かつ活力ある経営に努めるとともに、先駆性・独自性を発揮し、社会福祉に貢献します。

## 福祉サービス方針

1. 役職員は高い志しや倫理観をもって利用者に相對します。
  - ☆一人ひとりを大切に考え支援を行います
  - ☆法令順守の管理体制を堅持します
  - ☆主体性を尊重して共感に基づく取り組みをします
  - ☆差別撤廃や人権擁護の立場で行動します
  - ☆苦情等の申出には誠意をもって解決を図ります
  - ☆家族等からの安心と信頼を得られるよう努めます
2. 組織が持つ機能を提供します。
  - ☆社会一般の生活と隔たりのない暮らしを提供します
  - ☆安全で快適な施設・環境をつくります
  - ☆サービス利用にあたっては誠意をもって相談支援を行います
  - ☆公益性を図り、利用者、家族、地域等との共生・共栄の社会づくりを目指します

社会福祉法人りんどう信濃会

## はじめに

### 1. 事業計画の基本的考え方

近年、社会情勢の変化と共に社会福祉法人を取り巻く環境も大きな変化を余儀なくされています。「運営」から「経営」への転換が求められ、特に財政面を中心とした経営基盤の強化、経営の効率化が強調されると共に、組織のガバナンスの強化や事業運営の透明性の向上などが求められています。

当法人では、昨年4月から施行された改正社会福祉法に添ってそれら法人に求められている社会的な役割に答えられるような経営に努めてきました。平成30年度は法人及び6寮の第2期中期計画の開始の年となりますが、引続き6寮の独自性を活かした具体的なアクションプランを立案し、自ら主導する経営計画を盛り込んだ内容となるような事業計画としていきます。

また障がい福祉の基本的な考え方や方向性の変化、社会情勢の変動等への対応が今後の大きな課題ですが、法人の経営環境にも常に配慮しつつ、経営理念の確認と、現状分析、長期的な将来ビジョンについての検討を実施していきます。

社会福祉法人契約基準改定や法人会計基準の改正に伴う関連法制度からの要請等を踏まえ、法人諸規程の改定と諸細則等の制定が必要となっているため、順次関連法案に則り準備を進めて参ります。

### 2. 平成30年度 法人・各寮事業計画の骨子と予算編成の基本

法人及び6寮の第2期中期計画に沿って各事業計画を推進していきます。特に各寮の「拠点区分運営協議会」活動の充実と、地域福祉・推進が可能となるような、立地条件や地域のニーズに適應した地域貢献的な活動等を重要課題として、取り組んでいきます。

各寮において新規利用者の減少や職員の雇用確保などが、重要課題となっています。事業の体制を見直し、安定的な経営に向けての工夫や努力を全体の共有課題として前年度に引続き取り組んでいきます。設備等の維持管理、職員の資質向上対策等を基本にした具体的な目標を計画的に実施していきます。

平成30年度障害福祉サービス等報酬改定の内容が示されました。全体として若干のプラス改定率(+0.47%)となりましたが、施設経営のうえで、各寮の建物や施設設備等の老朽化、利用者の減少など不安定・不確実な要素も大きいことから、基本的な予算編成は前年度を踏襲して積算しますが、収入の安定化に向けた対策の具現化(短期入所や生活介護の積極的受入等)や施設設備の維持管理、経費の節約等に努めます。

## 本年度の基本方針

### 1. 支援サービスの向上

#### (1) 利用者の人としての尊厳を大切にす

- 1) 利用者一人ひとりを、かけがえのない存在として尊重し、虐待防止・権利を擁護するとともに、人としての尊厳が守られることを最優先する。
- 2) 利用者の意思や自主性を尊重する支援に配慮すると共に、常に利用者の立場に立って主体的に行動できるよう支援する。(研修等を通じて「意思決定支援」について学ぶ)
- 3) 職員は、コンプライアンス(法令等を遵守)することはもとより、利用者に対等な人間関係の確保に努める。
- 4) 利用者等からの苦情申し出を真摯に受けとめ、苦情解決を積極的に行う。
- 5) 利用者のプライバシー保護に努める。

6) 利用者への虐待や金銭的な不祥事を、絶対に起こさないよう法人としての強い意思を示し、具体的体制(コンプライアンス等の強化)を再構築し職員に周知させる。

(2) 健康の維持増進

- 1) 各種健康診断のほか、疾病の予防と早期発見、早期治療に努める。特に感染症対策十分留意する。
- 2) 嘱託医や協力医療機関との連携、職員の医学的知識の習得を図る。
- 3) 機能訓練を始め、利用者に相応した摂食・嚥下の問題にも専門的な対応を図る。
- 4) 食生活の充実を図る。
- 5) 感染症対策

(3) 老化対策

- 1) 利用者の老化傾向実態を把握し、一人ひとりに応じたりハビリの実施等老化防止に努める。
- 2) 利用者の老化の進行に即応した支援及び介助・介護等に努める。

(4) 豊かな暮らしの支援

- 1) 利用者の意向を最大限尊重した、暮らしの場を提供する事業運営を目指す。
- 2) 生活介護サービスのみ利用者にも、様々なサービスを提供し、より自立した生活ができるよう支援する。
- 3) 利用者が自立して地域生活を可能とするため、共同生活事業を実施し、適切なバックアップ体制を確立する。
- 4) 利用者が働くことを通じて、生き甲斐と喜びと誇りをもてるよう支援する。
- 5) 利用者の教養や趣味などを深めるための支援を通じて、潤いのある暮らしを目指す。
- 6) 高齢等により自立若しくは地域移行できない場合は、利用者及び家族等の意向を確認し、入所支援、生活介護事業等を通して生涯に亘る安心・安全な暮らしへの支援に努める。

(5) 利用者自治会への支援と協力

- 1) 利用者自治会が自主的に運営できるよう支援する。
- 2) 利用者自治会の意見を尊重し、施設運営が行われるよう配慮する。

(6) 家族とのつながり

- 1) 各施設の家族会及び悠生寮家族会連合会との連携を密にし、利用者・家族(身元引受人又は後見人)との課題を共有する。
- 2) 家族(家庭)と施設事業・行事等の交流をとおして連携を深める。

## 2. 施設運営の方針

- (1) 各寮の運営協議会の活動の充実を図るため、規則に則り協議会委員である利用者、家族の代表者、地域の代表者等への情報の提供を行うと共に、施設運営への理解と協力、助言、意見等聴取するものとする。
- (2) 施設運営については、継続的にPDCA(プラン・ドゥ・チェック・アクション)のサイクル体制に努め、また、国・県の第5次障害福祉計画の基本方針や施策を注視しながら、経営の方向や判断に反映させる。
- (3) 社会福祉法人としてのガバナンスの強化や、経営情報の透明性の確保に留意する。各寮においても、適切な情報の受発信、公開と共有化に努めると共に「地域における公益的な取組」を計画し実施する。また、今後の状況によっては社会福祉充実計画(「地域公益事業」；社会

福祉充実残額を保有している法人は、その財産を活用するための位置付け事業であるが、当法人としては、当面非該当。)の作成も視野に入れていく。

- (4) 限られている経営資源(施設、設備、人材、資金及び社会資源等)をより有効活用するため、地域社会・利用者のニーズを的確に把握し、地域との絆を深め、地域貢献など可能な事業の展開を図る。
- (5) 運営の基本文書である「職員行動規範」及び「福祉サービスマニュアル」に則り、委員会や研修会及び各寮の職員会等を通して皆が共有し、支援サービスの質の向上を図る。  
「福祉サービスマニュアル」は、随時見直しと整備をおこなう。
- (6) 新しく策定した第2期中期計画に基づき、経営の安定と障害者福祉サービスの質の向上を図り、長期的なビジョンと方向性についても検討していく。
- (7) 利用者・職員特定個人情報規程(マイナンバー制度)に基づき、安全管理運用に努める。

### 3. 施設整備

- (1) 利用者にとって、常に住み心地の良い住環境の整備、維持管理と危険防止に努める。
- (2) 第2期中期計画に則り、利用者の老化や身体状況に応じた整備・設備の充実を順次図る。
- (3) 多額な費用を必要とする施設整備については、第2期中期計画に沿って事業を推進する。
- (4) 老朽化等にかかる大規模な改修や施設整備が必要とされる事例については将来的な構想を検討しながら適切な計画を策定し実行する。

### 4. 人材確保・育成・職員研修

- (1) 役職員の研修体制を確立し、経営、施設運営、支援サービスの向上に努める。
- (2) 職員の研修(必要な国家資格等取得含む)を重視し、職員の資質向上に努め、適正な人事配置を確立する。
- (3) OJTを主体とした職場内研修を推進し、組織の一員としてそれぞれの役割を果たせる人材の育成を図る。
- (4) 利用者のニーズに応えられる専門性(技能含む)と、グローバルな知識及び人間性を兼ね備えた職員の育成を図る。

### 5. 地域支援・交流

- (1) 在宅障がい者の支援として、日中活動系サービスの受入れや、短期入所・タイムケア等を積極的に行うと共に、指定特定相談支援事業者として、利用者相談支援の推進を図ります。
- (2) 施設の所在する地域と積極的に交流すると共に、地域の一員としての役割を果たす。
- (3) 施設を可能な限り地域に開放し、必要な人材についても状況に応じて派遣し地域貢献を果たす。
- (4) 国の障がい者福祉の基本理念や施策を注視し、地域ニーズに出来るだけ応える体制を検討していく。

### 6. りんどう信濃会後援会との連携

- (1) 後援会の活動と組織強化に一定の役割を果たしていく。
- (2) 悠生寮家族会会員以外の障がい者を抱えている会員については、個別に意向聴取、情報の提

供や相談支援業務等を行い、会員のニーズを把握し法人及び事業運営等に反映させる。

## 7. 悠生寮家族会連合会との連携

- (1) 悠生寮寮家族会連合会の活動や事業に対して法人として従前のとおり支援し協力を図っていく。

## 8. 外部機関等との連携

- (1) 各障害保健福祉圏域の関係機関（基幹福祉事務所、市町村福祉事務所・福祉担当課及び総合支援センター）等と常に連携を保ち、障がい者の福祉サービス向上に向けて役割を果たしていく。
- (2) 長野県知的障がい福祉協会等の障がい者福祉団体との連携により、情報の確保、関係機関への意見の反映、職員の研修等を図る。
- (3) 西駒郷及び西駒郷保護者会、西駒郷協力会との連携を図る。

## 本年度の具体的な取組み

### 1. 経営及び施設事業

- (1) 社会福祉法人の使命と経営の原則に基づいた計画の立案と実行に努める。  
改正社会福祉法に則り、良質な福祉サービスを提供する社会福祉法人としての使命を自覚し、公益的、公共的及び健全な財務規律による信頼性の高い経営を目指した第2期中期計画を策定し実行する。
- (2) 特に法人（施設）の使命として、「地域における公益的な取組の責務」が謳われていることから、各寮においては継続的に施設立地の現状を鑑みながら、福祉ニーズに答えられるような出来る範囲の具体的な取組みを計画し実施していく。
- (3) 第2期中期計画をスタートさせる。また、社会状況の変化、障がい福祉を取り巻く環境やニーズの変化を、分析し新たな法人や施設の在り方や将来ビジョンを検討するための具体的な取組みについて検討する。
- (4) 法人・各寮の第2期中期計画を基本として、各寮の収支バランスを適正に管理し、合理化・節制等を図りつつ、経営安定の維持に向けた取り組みを年次的に実施する。

### 2. 施設整備（概ね平成30年度大規模整備関係事項）

- (1) 駒ヶ根悠生寮  
第2期中期計画に基づく寮舎設備等の整備に努める。  
特に床暖房の濾水の解決策を早急に検討し、利用者の快適な住環境の確保に向けて改修工事等をおこなう。また老朽化に伴う内装等の修繕を実施する。
- (2) 穂高悠生寮  
第2期中期計画に基づく寮舎設備等の整備に努める。  
老朽化に伴う建物及び設備関係の補修や修繕事業を計画しているが、県補助金申請の却下の結果を受けて自己財源を使い優先順位をつけて実施する。

- (3) 上田悠生寮  
第2期中期計画に基づく寮舎設備等の整備に努める。  
東側のり面の土砂崩落に伴う改修工事及び老朽化した屋内外の不具合箇所の計画的修繕に努める。
- (4) 喬木悠生寮  
第2期中期計画に基づく寮舎設備等の整備に努める。  
中庭、浴室の改修など、屋内外の計画的修繕の実施。
- (5) はらむら悠生寮  
第2期中期計画に基づく寮舎設備等の整備に努める。  
新グループホーム建設の実施。
- (6) 須坂悠生寮  
第2期中期計画に基づく寮舎設備等の整備に努める。  
床のリノリウム張替え事業を継続する。

### 3. 職員の確保・人材育成・研修等

- (1) 人材の確保が困難な状況から、良質な人材の安定的・継続的な確保に向けた、組織的な体制を整備する。マイナビ（大学生向け就活情報サイト）登録や、新聞・パンフレットなどの広告媒体を有効に活用し、情報の受発信や内定者へのフォローなど積極的・効果的な取組を行う。また、業務貢献手当等新設された諸規程の内容を効果的に活用する。
- (2) 研修体制を見直し、より効果的な研修計画を立案・実施する。特に管理職向けの外部講師招聘による研修や、ミドルマネージャー向けの継続的なマネジメントを中心としたリーダー層育成のための研修、RX青山幸広先生による介護技術研修などに努める。
- (3) 職場内のOJTの充実と、資格取得のための支援体制を充実させる。
- (4) 「人事及び組織に関する基準」、「就業規則」及び「福祉・介護職員処遇改善加算」のキャリアパス要件等に基づき、福祉専門職員配置を維持するため、知識・技能等の習得を図る研修体系を計画的に取組んでいく。
- (5) 離職を防ぐため、コミュニケーション作りに努め、より良い職場内の人間関係、チームワークの醸成や意識改革など組織的に取組む。また、中途採用者の処遇や指導についての体制づくりをおこなう。
- (6) 職員の安全と健康に配慮し、メンタルヘルス体制に努める。特にストレスチェックの実施やメンタル不調者の早期対応に努める。
- (7) 業務の効率性や職員のワークライフバランスに配慮し、常時業務改善の意識と実行に努め業務の省力化に留意する。
- (8) 喀痰吸引等研修（第三号研修・特定の者）の実施  
指定実施期間である法人本部が主催して喀痰吸引等研修(第三号研修・特定の者)を、年間計画に組み込み実施する。また施設の利用者状況によっては、出来る範囲で第二号研修(不特定の者)受講(外部研修機関の利用)を、を継続していく。

#### 4. 家族会との連携

- (1) 各寮の家族会活動を支援し、任意団体家族会連合会と連携していく。
- (2) 利用者、家族会の意見や要望等が反映されるよう、拠点区分運営協議会等において利用者、家族からも意見等具申していただき、法人及び施設の運営に活かされる体制の構築と共に、一層の理解と協力や絆を深めていく。

#### 5. 本年度予算の基本

- (1) 「事業計画の基本的考え方」記載のとおり、平成30年度障害福祉サービス等報酬は、今回の報酬改定の結果、事業によって若干のプラス改定率となりましたが、第2期中期計画に準拠して、ほぼ前年度を踏襲した資金収支予算執行とし、経営の安定維持を図るような対応とします。
- (2) 補正予算について  
必要な事案が生じた場合、理事会において随時審議していきます。

# 平成30年度 駒ヶ根悠生寮事業計画

## 本年度の基本方針と目標

駒ヶ根悠生寮は、平成30年度の法人基本方針に基づき、本年度の目標を次のとおりとする。

1. 施設入所事業においては、圏域での入所ニーズを把握しつつ対応していくが、現利用者の重度高齢化に鑑みて、状況に応じて二人部屋から個室への移行を実施していく。
2. 生活介護事業及び共同生活事業においては、欠員補充による経営の安定を目指す、地域のニーズを把握しながら定員の見直しを図っていく。
3. 短期入所事業においては、圏域の地域生活支援拠点整備における緊急時の受入れに対応していく。
4. 老朽化に伴う暖房設備及び内装の修繕、照明のLED化を第二期中期計画に則り実施していく。

## 具体的な取り組み

### 1. 支援サービスの向上

#### (1) 利用者本位の福祉サービスに努める

- 1) サービス等利用計画に沿った個別支援計画を作成し、個々の暮らしに相応しい支援サービスと環境を整える。
- 2) 「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」を活用し、自己決定に困難を抱える利用者が、自らの意思が反映された生活を送ることができるよう、質の高いサービス提供をめざす。
- 3) 「福祉サービス第三者評価基準」による自己点検を実施し、明確化された課題を改善していくことで、サービスの質の向上を図る。

#### (2) 人権、権利擁護

- 1) 「職員行動規範」を遵守し、全職員が確固たる倫理観をもって利用者支援にあたる。
- 2) 権利擁護委員会を中心に、権利擁護、虐待防止への組織的な対策に取り組み、不適切支援ゼロをめざす。
- 3) 身体拘束対策委員会を中心に、グレーゾーンを含めた検証を実施し、身体拘束ゼロをめざす。
- 4) 利用者の学習会を開催し、権利意識の高揚を図る。

#### (3) 健康の維持と介護予防

##### 1) 健康管理

- ・利用者個々の健康状態の把握に努めると共に、各種定期健診を実施し、疾病等の予防と早期発見・治療に努める。
- ・利用者自治会等の機会を通じて、保健及び栄養などに関する情報提供を行ない、その啓発を図る。
- ・PT(理学療法士)、ST(言語聴覚士)の指導によるリハビリと口腔衛生の充実を継続する。

##### 2) 食生活

- ・食生活委員会を中心に、食の充実をとおして生活の潤いをめざす。
- ・調理業者との連携を図り、利用者の疾病や障がい等の個別ニーズに即応できる食事の提供に努める。

##### 3) 感染症の予防

- ・感染症対策委員会を中心に、施設内の衛生管理と感染症の予防及び対策を継続的に実施する。

##### 4) 介護予防

- ・利用者の心身機能を把握し、その維持・改善と環境調整をとおして、個々の生活機能レベルの向上に努める。
- ・利用者も職員も安心・安全な介護技術の習得に努める。

#### (4) 日中活動の充実

- 1) 生産活動及び創作活動等、日中活動の選択肢を増やし、個々のニーズに沿った活動の提供に努める。
- 2) 活動環境の整備と適切な活動支援が行える職員配置に努める。



## (5) 危機管理体制の充実

### 1) 防災

- 様々な災害(火災・地震・水害・土砂崩落)を想定した訓練を実施する。
- 事業継続計画(BCP)の内容及び防災備品の更新を随時行い、有事の際に実効性のあるものとしていく。
- 地域との防災協定の見直しと近隣企業との応援体制を確立する。

### 2) 事故防止

- 事故ヒヤリの検証を確実に実施し、再発防止に努める。
- リスクアセスメントや日常の危険予知の実施により職員各自の気づきや感性を高める。
- 簡易型ヒヤリハットを継続活用する。

### 3) 防犯

- 利用者の生命・身体・心を守ることを最優先として、職員は自身の安全も守りつつ連携して防犯に努める。
- 不審者の侵入を想定し、ハード及びソフト面を整備する。
- 地域住民及び家族・関係機関(市・警察・消防等)との関係づくりに努める。

## (6) 苦情解決

- 1) 日常での要望に真摯に対応し、利用者満足度の向上に努める。
- 2) 職員は利用者の想いを積極的に代弁するよう努める。
- 3) 苦情解決第三者委員を招聘して、利用者へのきめ細かな聴き取りを実施する。
- 4) 利用者への苦情解決体制の学習会を継続実施する。

## 2. 施設運営の方針

### (1) 中・長期的な施設運営について

- 1) 第二期中期計画に則り、施設整備及び経営の安定化を図っていく。
- 2) 地域・利用者・家族会の代表者で組織する運営協議会において、事業計画及び予算・中期計画・地域貢献事業等について意見を聴取し、施設運営に反映させる。
- 3) 長期的な将来構想に向けて継続的な検討とシミュレーションを行っていく。

### (2) 経営安定化の具体的取り組み

- 1) 各事業、法令を遵守し適正な支援サービスを提供する。
- 2) 利用者欠員時の早期補充のため、関係機関及び他事業所・病院等との関係作りに努める。
- 3) 日常から省エネ・節約に努める。

## 3. 施設整備

- (1) 寮舎内外の建物・設備等の保守管理に努めると共に、突発的な事態に対応できるように準備する。
- (2) 老朽化に伴う暖房設備及び内装の修繕を行い、より快適な居住環境を整えていく。
- (3) 寮舎内の照明のLED化を進める。

## 4. 職員研修・人材育成

- (1) 利用者の介護ニーズに適切に対応するため、介護の知識・技術の向上研修を充実させる。
- (2) 精神障がい・発達障がい等について、更に理解を深めるための研修を充実させる。
- (3) 各福祉士の資格取得者は自己研鑽に努め、専門性の向上に努めると共に業務に反映させる。
- (4) 外部研修の受講者は、職場内での伝達研修を確実に実施し、現場の衆知となるよう努める。
- (5) 職員の安全及び健康の保持増進のため、安全衛生委員会を定期に開催すると共に、メンタルヘルス研修を実施する。
- (6) 職員のストレスチェックを実施し、労働環境の検証及び改善を図っていく。

## 5. 地域支援・交流・相談支援事業

- (1) 共同生活事業部の組織運営を充実させる。
  - 1) クループホーム「はるか」及び「五十鈴の家」の欠員補充と、世話人及び生活支援員の適正配置に努める。
  - 2) 「グループホーム「はるか」は、安全性の確認と利用者の意向と状況を把握しつつ継続していく。

- 3) 有事の際の本体バックアップ体制を強化していく。
- (2) 「短期入所事業」「タイムケア事業」の積極的な受入れに努める。
- (3) 地域の資源としての当寮の位置づけを明確にすると共に、地域社会貢献に努める。
  - 1) 町4区第6自治組合の一員として役割を果たしていくと共に、相互の行事をとおして交流を深める。
  - 2) 地域公益的事業として、「地域住民交流学習支援事業」を実施する。
  - 3) 災害時の地域住民及び障害児者の避難受入れ場所として準備する。
  - 4) 市町村や地域の事業所・関係機関等（圏域自立支援協議会や障害者総合支援センターとの連携を図り、地域福祉に貢献する。
- (4) ボランティアとの交流を積極的に図り、新たな開拓につなげる。
- (5) 各種団体を積極的に受け入れ、利用者の暮らしに潤いが持てるようにする。
- (6) 指定特定相談支援事業の体制と円滑な運営に努め、圏域との連携を密にする。

## 6. 利用者家族・家族会との連携

- (1) 利用者支援に関して、日常的な家族への連絡及び定期通信を行ない、相互の理解を深める。
- (2) 家族会が円滑に活動できるよう連携を図る。
- (3) 家族職員交流懇談会を開催し、相互の情報交換と連携を深める。

## 7. 年間行事計画

月	行事内容	家族会行事・参加行事
4	・開寮記念日(4/2) ・お花見(4/11) ・春期ふれあい期間(4/28～5/6)	・家族会正副会長会 ・家族会理事会 総会 4/28
5	・端午の節句 ・地域合同防災訓練(5/27)	・家族会環境整備(5/19) ・上伊那地区障がい者スポーツ大会(5/26) ・地域河川一斉清掃(5/27)
6	・五平餅会(6/2)	・家族会手作りご馳走会(五平餅)
7	・七夕祭(7/7) ・納涼祭(7/28)	・長野県障害者フライングディスク大会(7/8) ・家族会環境整備(7/21)
8	・生活習慣病検診(8/ ) ・夏期ふれあい期間(8/11～16)	
9	・総合防災訓練 ・敬老会	・駒ヶ根市ふれあい広場(9/2) ・家族会環境整備・家族職員交流懇談会・懇親会(9/29)
10	・第40回りんどろ祭(10/20)	
11	・収穫祭	・長野県知的障がい福祉大会
12	・クリスマス会 ・冬期ふれあい期間(12/28～1/3)	・家族会漬菜作業(12/1)
1	・利用者新年会(1/ )	・町内どんど焼き
2	・節分	・家族会正副会長会
3	・ひな祭り	・駒ヶ根市社会福祉大会(3/2)
随時	・グループ旅行 ・季節に合わせたスポット的行事 (手作りおやつなど) ・レクリエーション (サンスポーツスポーツ教室など) ・デイプログラム行事	地域公益的事業「地域住民交流学習支援事業」地域集会所 ・「介護技術学習会」 ・「食事栄養学習会」 ・「感染症対策学習会」

## 平成30年度穂高悠生寮事業計画

### 本年度の基本方針と目標

穂高悠生寮は、平成30年度法人基本方針及び第二期中期計画に基づき、本年度の目標を次のとおりとする。

- (1) 利用者の権利擁護に真摯に向き合い、職員個々／職場組織で取り組む。
- (2) 職員は自己の目指す職業人像を描き職務に向かう。
- (3) 各事業の安定運営に努める。
- (4) 施設寮舎、設備等の維持管理に努め老朽対策を怠らない。
- (5) 改正社会福祉法にのっとり、運営協議会の有効運営や地域貢献の取り組みを展開する。

### 具体的な取り組み

#### 1. 支援サービスの向上

- (1) 利用者本位の福祉サービスの提供
  - 1) 個別支援計画の推進が、利用者の笑顔に繋がる実践を行う。
  - 2) 意思決定支援の理解を進め、実践していく。
- (2) 人権、権利擁護
  - 1) 虐待を発生させない視点での取り組みとして、セルフチェック表の有効活用・アンガーマネジメント等の技術研究など委員会・研修活動を行う。
  - 2) 第三者委員による職員聞き取りの時間を設ける。
  - 3) ボランティア／実習生／外部講師との懇談の機会を設け、「外から見た穂高悠生」を知り、活用する。
  - 4) 金銭的虐待防止として、利用者預かり金管理の再構築体制の遵守に努める。
- (3) 健康の維持増進
  - 1) 健康管理
    - ・ 嘱託医、他医療機関との連携に努める。
    - ・ 口腔衛生／身体機能維持増進に注目し、訪問歯科衛生士／理学療法士／アロマセラピストの成果をさらに有効活用する（研修等を含む）。
  - 2) 感染症等の予防
    - ・ スタANDARDプリコーションの徹底の上、毎年の研修会を契機として現行の発生時対応について見直しと周知を行う。また、必要な設備投資を継続して行う。
    - ・ 夏場は熱中症対策を重点に取り組む。
  - 3) 食生活
    - ・ 食事空間の環境や衛生面（椅子等の保清ほか）の整備を行う。
- (4) 介護予防、介護支援技術の向上
  - 1) 口腔体操を介護予防の観点より継続する。追跡的に調査を行い分析し、情報提供する。また介護予防の観点で、口腔体操の他に取り入れることが出来る分野を研究する。

2) 外部講師の支援技術講習を受け、その技術を日常支援に汎用させていく。また講習の意図するもう一つの目的である職場の活性化への取り組みを行う。

(5) 日中活動の充実

- 1) 活動場所と支援体制整備が課題となっている。好機と捉えて取り組む。
- 2) 活動種目の工夫（楽しめる観点）に引き続き取り組む。

(6) 危機管理体制の充実

- 1) 身体拘束解除の取り組み
  - ・介護・援助方法の見直し等、不断に行っていく。
  - ・向精神薬頓服の扱いの審議から派生させ、眠剤と日中の過ごし方・下剤と運動やマッサージ等について研究する。
- 2) 喀痰吸引関係
  - ・第2号研修の修了を推進する。
- 3) 防災関係
  - ・地域防災協定の見直し／更新に着手する。
- 4) リスクマネジメント
  - ・事故報告暫定対策の精度を高めるために追跡検討を継続する。
  - ・事故報告書書式について、書き易く且つ活用に有効な形式を研究する。

(7) 苦情解決体制の整備

- 1) 利用者の「小さな不満」「小さなトラブル」「小さな支援ミス」レベルからキャッチし、情報共有／周知を心掛けることにより解決を図る。
- 2) 第三者委員と意思疎通を図るなどコーディネートの意識を持ち、活動の活性化を図る。

## 2. 施設運営の方針

- (1) 各事業（施設入所支援・生活介護・短期入所・共同生活援助・相談支援）、連携を持たせる。稼働率等把握しながら運営する。
- (2) 30年度からの第二期中期計画に沿った運営をする。
- (3) 運営協議会の趣旨／機能を大切にして2年目の運用を図る。
- (4) 福祉人材育成の観点を持つ。ホームページのリニューアルから実習生やボランティア等への対応、広報活動など多面的継続的に行う。

## 3. 施設整備

- (1) 社会福祉施設整備補助金事業は3期継続申請したが不採択となった。自己資金計画に変更。
  - ①本館屋根、壁塗装等 28,577千 を優先に（H30年度計画へ）。
  - ②灯油地下タンク新設 42,165千 次年度以降で計画へ。
- (2) 館内照明LED交換工事（6年計画の3年目） 1000千
- (3) 居室エアコンの整備は本年度1台導入で完了する 100千
- (4) 館内壁改修（H30で廊下等は終了。H31～居室）1000千
- (5) 下棟トイレ改修工事 2基（男女） 10,000千

(6) 公用車以下、老朽等で突発的更新の高額設備や機器はリース契約等で対応する。

(厨房冷蔵庫／大型洗濯機、その他)

※ 施設及びグループホームの建物／設備／機器の点検を定期的に行い、不具合や修繕箇所の早期対処に努める。

#### 4. 職員研修・人材育成

(1) 相談支援及びサービス管理責任者の資格要件を満たすため、人事管理に基づき養成する。

(2) 介護福祉士等の資格取得を支援する(補助金制度・資格取得助成制度)。

(3) 強度行動障害や自閉症スペクトラム或いは精神疾患等、専門知識の習得に努める。

(委員会活動や学習会。研修の例として養護学校の研修等)

(4) 法人研修を通じて、自分の立ち位置や職務を明確にしていく。外部講師型研修で学んだ成果を業務改善と改革意識の向上に繋げていく。

(5) 施設内研修は必要かつ専門的な研修を行い、支援サービスの弱点克服を図る。

(6) 協会ほか各機関主催の外部研修に参加して専門性を高め、現業に活かしていく。

(7) OJT を通し、新人・中堅職員・リーダー職員の人材育成を図る。

#### 5. 地域支援・交流 地域貢献 相談支援事業

(1) 在宅障がい者の生活支援としての短期入所／日中一時を行う。

(2) 牧区、安曇野市内を中心に相互行事を通して住民交流をする。

(3) ボランティアや外部団体を大切にする。活動意欲が高まる対応をする。

(4) 施設周辺道路等の環境整備及び美化を心掛ける。

(5) 施設及び職員の専門性を防災訓練や施設研修において提供(地域貢献)。地域の拠点施設として機能していく意識を持つ。

(6) 自立支援協議会各分会参加／地域生活拠点整備事業の研究。

(7) 相談支援事業を継続し、地域のニーズに応えていく。

#### 6. 業務改善

(1) 定期設備点検における「労働安全」の項目にて、「利用者にとって、そして職員にとって」の視点より点検し、職場環境の向上を目指す。

(2) 「改善提案」を出し易い機運を創出して奨励していく(業務貢献手当)。

#### 7. 利用者家族・家族会との連携

(1) 日常的/定期的に報告及び意見交換の機会を設ける。

(個人の健康面や情報/施設の動向、通信物等の工夫も含めて)

(2) 家族会組織運営がスムーズに進むよう連携する。

(3) 成年後見制度について機会あるごとに理解促進を図っていく。

(4) 身元引受人の変更の要件等、調整や情報整理が必要な場合は対応する。

(5) 家族会顧問及び第三者委員を複数名引き続き委嘱する。

## 8. 年間行事計画(別紙)

平成30年度 穂高悠生寮 行事計画(案)

月	行事内容	参加(地域)行事	家族会
4月	開寮記念 /6(金) 道祖神環境整備 /12(木) 道祖神祭り・花見/20(金)		道祖神環境整備 /12(木) 道祖神祭り・花見 /20(金)
5月	端午の節句 /10(木) 魚国合同炊き出し訓練 /24(木)		家族会総会 /13(日)
6月	デザートバイキング/7(木) 運営協議会 /16(土)	牧区ふれあいサロン	運営協議会 /16(土)
7月	七夕祭り /16(木) 家族会合同環境整備/22(日) 胸部X線 /20(金) 納涼祭 /26(木)	ナイスハートバザール	連合会定期総会(須坂)/7土-/8 家族会合同環境整備・職員交流会 /22(日) 納涼祭 /26(木)
8月	納涼バイキング鱒つかみ /30(木)	牧区ふれあいサロン 草競馬	納涼バイキング /30(木)
9月	牧区合同防災訓練 賀の祝い /20(木) 利用者一般健診	牧区防災訓練	
10月	悠秋の集い /4(木)	牧諏訪神社礼祭 牧区芸能祭	悠秋の集い /4(木)
11月	インフルエンザ予防接種 焼き芋会 /29(木)	市文化祭 福祉大会	福祉大会 焼き芋会 /29(木)
12月	家族会合同漬物環境整備 /2(日) クリスマス会・忘年会/20(木)		家族会合同漬物環境整備 /2(日)
1月	三九郎 /10(木) 新年会バイキング/24(木)		三九郎 /10(木)
2月	節分 /7(木) 餅つき /21(木)	ナイスハートバザール	
3月	ひな祭り /7(木) 運営協議会 /16(土)		運営協議会 /16(土) 家族会総会 /24(日)
適時	グループ旅行(日帰り/泊)・ハビリ・フラダンス教室 アロマセラピー・訪問コンサート等・サンアップルまつもと出張レク教室 訪問理容・理学療法士訪問リハビリ・歯科衛生士歯磨き指導 内科検診 1/月 精神科往診 1/月 訪問歯科 1~2/月 眼科検診 歯科検診 婦人科検診		

## 本年度の基本方針と目標

上田悠生寮は、平成30年度の法人基本方針に基づき、本年度の目標を次のとおりとする。

1. 生活介護サービスについては過去2年間の利用実績から、指定更新申請(指定年月日；H30.1.1)にあわせて定員を70名から60名に変更した。経営の安定には入所の欠員の補充と通所を利用する方の新規受け入れが必須となる。そのために活動内容及び体制等の見直しを行い、通所部を主体とした日中活動の活性化を図り新規利用に繋げる。
2. グループホームいこいは開設2年目を迎える。平均年齢が72.8歳と、高齢期を迎えた方の支援のあり方については既に難題である。障害福祉サービスと介護保険サービスの各種サービスを組み合わせて豊かな地域生活を支えていく。
3. 短期入所平均利用率の向上、及び上小圏域地域生活支援拠点に関わる緊急ショートステイ事業への協力をするため受入体制を整える。
4. 指定一般相談支援(地域定着)・指定特定相談支援については外部機関を含めた関係者と協力して、利用者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に繋げるように努める。
5. 権利擁護・虐待防止活動としてスローガンを設定し啓蒙を図る。

## 具体的な取り組み

### 1. 支援サービスの向上

#### (1) 利用者本位の福祉サービスに努める

- 1) サービス等利用計画(私の応援プラン)に沿った個別支援計画を作成し、支援に至るまで一貫したチームアプローチに努める。
- 2) 意思形成支援及び意思表示支援を駆使し(着目心がけ)、生活のあらゆる場面でご本人の意思が最大限に反映された選択ができるように丁寧な支援に努める。(意思決定支援)
- 3) 福祉サービス第三者評価基準による自己評価を行い抽出された諸課題の改善を図る。

#### (2) 権利擁護および虐待防止

- 1) 法人が定めた「職員行動規範」の趣旨と内容を理解し、特に遵守事項を徹底する。
- 2) 職員は高い倫理観をもって職務にあたり不適切支援の根絶を図る。
- 3) 虐待防止委員会では虐待防止に係る具体的組織的活動方針を決定し取り組む。
- 4) 虐待等の権利侵害が発生した場合は法人の規定に則り関係機関への通報等適正に対処する。
- 5) 虐待防止チェックリストの活用及び第三者評価の視点の導入等、自らの支援を振り返る機会をつくる。

#### (3) 健康の維持増進

##### 1) 健康管理

- ・健康状態の把握に努めるとともに、各種定期検診を実施し疾病等の予防と早期発見・早期治療に努める。

- ・重度多様化する利用者の健康管理のため、看護師と現場支援員との連携及び一人ひとりに係る各種情報の共有に努める。
- 2) 感染症の予防
    - ・長野県感染症情報等から最新の情報を入手し、その状況に応じた適切な対策を講ずる。
    - ・施設内の衛生管理及び感染症の予防に万全の対策を講ずる。
  - 3) 食生活
    - ・食生活委員会等を通して調理業者との連携強化を図り、利用者の要望（食の楽しみ）・疾病・障がい等の個別事情に配慮した食事を提供するなど食生活の充実を目指す。
  - (4) 介護予防、介護支援技術の向上
    - 1) 「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけ生活機能の維持向上を目指す。（介護状態になることをできるだけ遅らせるための方法・考え方 ICFを意識した）
    - 2) PT（理学療法士）の指導による運動療法等を用いて、運動機能の維持回復・生活習慣病の予防・障害予防等を図る。
    - 3) ST（言語聴覚士）を招聘し、主として安全な食生活実現のため嚥下障害への適切なアプローチ方法を学ぶ。
    - 4) 介護場面の特に移乗動作では利用者・職員の双方に安全な介護技術を習得する。
  - (5) 日中活動の充実
    - 1) 創作活動及びクラブ活動等、日中活動の選択肢を増やし、個々のニーズに沿った活動の提供に努める。
    - 2) より楽しく充実した活動にしていくために、利用者の感性の育成や才能の発掘に努める。
    - 3) 自閉的傾向等、発達障がいのある利用者への活動支援は、その特性を理解し適切なアプローチを行う。
  - (6) 危機管理体制の充実
    - 1) 身体拘束

身体拘束等対策委員会を定期開催し、身体拘束解除の具体的方法を多面的な視点から協議し身体拘束ゼロを目指す。
    - 2) 喀痰吸引等医療行為

安全な医療行為が確実に行われているか検証するために、医療的ケア委員会を定期開催し課題解決に努める。
    - 3) 防災（地震雪害風水害対策）
      - ・大規模災害を想定した防災訓練を実施し有事に備える。
      - ・地震、雪害、風水害等を想定したBCP（事業活動計画）を作成し、有事の際に職員が共通認識のもと対処できるように実効性のある訓練を行う。
    - 4) リスクマネジメント
      - ・事故報告及びヒヤリハット報告の検証を行い再発防止に努める。
      - ・リスクアセスメントや日常の危険予知の実施により事故を未然に防ぐ。そのために職員は過去の事件事例から学び、気づき等の感性を養うように努める。
      - ・交通法規及び安全運転管理規定を順守し安全運転を徹底する。
      - ・ストレスチェックの職場評価結果・分析を安全衛生委員会で検討し労働環境の改善を図る。



## 5) 防犯

- ・不審者の侵入等防犯対策を強化する。(夜間の戸締り巡視の徹底、防犯カメラの有効利用)

## (7) 苦情解決体制の整備

- 1) 利用者の苦情・要望は真摯に受け止め、課題を職員全体で共有した上で丁寧に回答を示す。
- 2) 代弁者として「気付き」の感性を養い、利用者の想いを探り課題の解決を図る。
- 3) 第三者委員の定期招聘等、苦情解決のシステムを効果的に活用し、きめ細やかな聴き取りを行い生活の満足度向上を目指す。

## 2. 施設運営の方針

### (1) 中長期的な施設運営

- 1) 第2期中期計画に基づき事業の確実な執行に努める。
- 2) 長期的な将来構想を描くために関係者及び地域のニーズ等を探る。
- 3) 新たな利用ニーズに対応するために通所事業の活性化を図る。
- 4) 地域の福祉資源として機能するために、自立支援協議会及び上小圏域施設連絡協議会の各部会等において情報交換・情報収集を行いそのあり方を検討する。

### (2) 運営協議会を開催し、地域、利用者、家族の各代表者等のご意見を聴取し事業運営に反映させる。

### (3) 経営安定化の具体的取り組み

- 1) 入所利用は可能な限り定員 50 名を目指す。対象者は上小圏域エリアを優先するも他エリアを含めて緊急性のある方の入所受け入れを行う。
- 2) 生活介護は通所者の利用増を図り定員 60 名の利用の定員を目指す。高齢化率から利用の減少が危惧される状況であり新規利用者の確保が重要になる。
- 3) 短期利用 (29 年度平均 1/31 現在 42.9% 1.72 人/日) の平均利用率 50%を目指す。そのための手立てとして利用希望に対しては可能な限り受け入れる。
- 4) 人員配置 2.5 : 1 から 2 : 1 への変更を目指す。
- 5) 設備・機械等の不具合の早期修繕修理、事故・苦情等への早期対応、仕事の効率化を図る、等々経費削減の手立てを効果的に進める。

## 3. 施設整備

### (1) 施設整備

- 1) 当初計画については速やかに執行する。
- 2) 建物設備等の保守管理に努め、老朽化した屋内外の不具合箇所の計画的修繕に努める。

### (2) 生活環境の整備

- 1) 利用者の生活習慣を最大限尊重するも、衛生的で心地よく暮らせるように、特に生活の身近な居室の環境美化に努める。
- 2) 季節に沿った生花や小物等を装飾し、暮らしに「鮮度」と「変化」をもたせる。

## 4. 職員研修・人材育成

- (1) 良質な人材の確保とサービスの質の向上を図る観点から、介護福祉士、社会福祉士等の資格取得について奨励し、自己啓発援助の対象として支援する。

- (2) 相談支援専門員やサービス管理責任者等の資格取得要件を満たす職員については、人事管理に基づき計画的に研修に派遣する。
- (3) 権利擁護及び虐待防止等に関係する外部研修への派遣、及び職場内研修を随時開催し正しい倫理観を習得する。
- (4) 自閉症等、発達障がい理解及び障がい特性に応じた支援方法を習得するなど、専門性の向上を図る。
- (5) 職員の心身の健康保持増進のため、メンタルヘルス等に係る研修を実施する。
- (6) 貴重な人材である職員の定着を図るため、一人ひとりが孤独感、疎外感を感じることがないように、職員は互いの人格及び存在を尊重し認め合い健全な人間関係の醸成を図る。
- (7) 特に総合職は部下との適切なコミュニケーションを図ることを使命として、自らを含め職員皆が安心して勤められる職場環境構築に努める。〔(6)～(7) 運営協議会提案事項〕

## 5. 地域支援・交流、相談支援事業

- (1) 共同生活事業部の円滑な運営を行う。
  - 1) 世話人会議等で利用者情報を共有して様々な課題の解決を図る。
  - 2) 利用者の心身の状況に応じて障害福祉及び介護保険のサービスを併用して暮らしを支える。
  - 3) 地域の資源を利用し豊かな地域生活を送れるよう支援する。
- (2) 地域の貴重な福祉資源であることを自覚し地域社会貢献に努める。
  - 1) 少年補導委託先として個々の状況に応じた受入体制を準備して役割を継続する。
  - 2) 当施設を含めた事業者間の送迎（加算なし）を必要としている利用者の要望に応じて可能な範囲で対応する。
  - 3) 諏訪形地区防犯防災協議会と連携し地域との相互協力を謳った防災協定を新たに策定し、災害時における障がい者や高齢者の避難場所としての体制・機能を整備する。〔運営協議会提案事項〕
- (3) 短期入所、タイムケア、日中一時支援事業等の積極的な受入に努める。
- (4) 上小圏域地域生活支援拠点に関わる緊急ショートステイ事業の受け入れ体制を整える。
- (5) 上小圏域自立支援協議会や上小圏域障害者総合支援センター等、地域の関係機関との連携を図り地域のニーズの把握に努め、柔軟に各サービスを提供する。
- (6) ボランティア等の各協力団体の皆さんとの積極的な交流を図り暮らしに潤いをもたせる。
- (7) 諏訪形区や地域活動に協力し交流する機会を模索する。
- (8) 指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業（地域定着）を担当する職員が計画的に相談者に関われる体制を整える。

## 7. 利用者家族及び家族会との連携

- (1) 家族会事業等が円滑に運営できるように連携を図る。
- (2) 利用者の豊かな施設生活実現のために、家族会のあり方について関係者と協議していく。
- (3) 悠生寮家族会連合会の事業活動等運営に協力をしていく。
- (4) 家族職員との懇談会を開催し情報交換と連携を深める。

平成30年度 年間行事予定表 上田悠生寮

月	行 事 内 容			参加行事
	本体 通所	家族会関係	共同生活	
4	・開寮記念日(4/1) ・お花見 ・中間ふれあい期間 (4/ ~5/ )	・家族会役員会( / ) ・家族会総会( / )	お花見外出	
5	・レクリエーション ・避難訓練 ・端午の節句	・通所部家族懇談会		・上小障がい者スポーツ大会( / )
6	・食のイベント	・家族会環境整備 ・家族会役員会(6/ )	避難訓練	・第28回ほのぼの市 (6/ ~ )
7	・七夕祭(7/7) ・		焼肉会	上田わっしょい
8	・納涼祭 ・夏期ふれあい期間 (8/ ~8/ )		夏期ふれあい期間	海野町七夕祭
9	・総合防災訓練 ・敬老の日 ・諏訪形地区秋のスマイル ボウリング	・家族会環境整備 ・家族会役員会(9/ )	敬老会食事会	・上小連協レクリエーション大会(9/ ) ・うえだ市民ふれあい 広場
10	・第31回 りんどう祭 (10/ )	家族会協力	夜間避難訓練	
11	・勤労感謝祭	・家族会野沢菜漬作業 (11/ )役員会		・長野県知的障害福祉 大会(11/ )
12	・クリスマス会 ・冬期ふれあい期間 (12/ ~1/ )	・通所部家族懇談会 ・通所年末年始休み	冬期ふれあい 期間	
1	・新年会	・家族会正副会長会	新年会	
2	・節分(2/3) ・食のイベント ・夜間避難訓練		節分	
3	・ひな祭り(3/3)	・家族会手作りおやつ提供 (3/ )役員会		
随 時	・グループ旅行 ・季節に合わせたスポット的 行事・行事食 ・レクリエーション(サンスポ ート佐久) ・誕生会 ・DVD上映会	外出(カラオケ・温泉・ポーリ ング・ ハイキング・コンサート等) 通所旅行	誕生日会 グループ旅行 コンサート外出	

# 平成 30 年度 喬木悠生寮事業計画

## ○本年度の基本方針と目標

喬木悠生寮は、平成 30 年度法人基本方針及び中期計画に基づき、本年度の目標を次のとおりとする

1. 安定的な事業運営に資する為、以下について重点的に取り組む
  - 1) 安定的な支援体制の維持継続を目標に、実際の支援体制に合わせた効率的なサービスの提供ができるよう日課の見直しや、支援内容のスリム化を図ってゆく。
  - 2) 安定的な支援体制の維持の為に職員のメンタルヘルス等の労働衛生、労働安全について安全委員会を中心に積極的に取り組む。
  - 3) 通所事業に於いては、利用者の障がい特性に合わせた日中活動の提供並びに職種開拓に努める。並行して利用者一人一人の生活体験の拡充を図る取り組みを継続してゆく。
  - 4) 共同生活事業については利用者の生活上不都合が無いよう相談支援専門員と連携し対応すると共に、利用者の地域生活の向上の為にきめ細やかな対応に努める。
  - 5) 相談支援業務の専任化により、利用者の意向を踏まえたより効率的且つ適切な障害福祉サービス利用の為に支援に努める。
  - 6) 各種事業の実施に当たっては常に「費用対効果」を意識し、経費の削減に努める。
2. 第 2 期中期計画（H30 年～32 年）初年度の取り組み
  - 1) 入所定員は 40 名、生活介護は引き続き 60 名を維持。又入所定員維持の方策についても共同生活事業部利用者の高齢化重度化への対応と絡めて検討を進めてゆく。
  - 2) 施設整備についてはデッドスペース化しつつある中庭の整備を行い、生活の潤いの為にイベントスペース設置（花壇や車いす通路の整備等）や支援動線の効率化の為に南北棟間の連絡通路の設置を行う。
  - 3) より効率的で安全・快適な支援を目指す為、居住空間のユニット化を視野に入れて検討を進めていく。
  - 4) 公益的の事業（在宅知的障がい者の災害時の地域指定福祉避難所）への取り組みに向けて、喬木村等関係機関との連携協議を加速化する。

## ○具体的な取組み

### 1. 支援サービスの向上

#### (1) 利用者本位の福祉サービスの実践

利用者本位の「意思決定支援」について個々の個別支援計画の中で実践し、その成果をサービス会議等の中で定期的に検証し、利用者の自己選択、自己決定をより増やしてゆく。

#### (2) 権利擁護、接遇マナー

・「優しい言葉で話しましょう」を権利擁護スローガンに掲げ、その実践を行うと共に虐待防止チェックリストを活用し、施設の体制整備の点検や支援姿勢の振り返りを行い、人権意識や接遇マナーの向上に努める。9月を権利擁護推進月間とし、推進委員を任命し重点的に啓蒙活動を図る。

・「気づき」「KY」（危険・予知）の醸成と接遇マナーの向上を図り、利用者の安全と安心、信頼の確保に努める。

・利用者の預り金管理については「利用者預り金管理規程」に則り、厳正な取り扱いを行う。

#### (3) 健康の維持促進

##### 1) 健康管理

・利用者の健康チェック、バイタルチェックの徹底を図り、個々に応じた体調把握を行うと共に、各種定期健診などを通じ、疾病の早期発見・治療に努める。

・重度多様化する利用者の健康管理のため、看護師を中心に現場支援員との連携を密にし健康管理に努めるとともに、様々な利用者の状況に対応できる体制づくり（医療機関や家族との連携）に努める。

##### 2) 感染症予防

・標準予防策を徹底継続し、地域の感染症情報の収集や通所ご家族や他事業所との連携強化、職員（家族含む）の危機管理意識の強化を図り、感染症は「持ち込まない」を徹底する。

##### 3) 食生活

・調理委託業者（株）魚国との連携を強化し、「食の楽しみ」や「健康維持」の観点で利用者の利益に供するよう委託業者に求めてゆく。

- ・食事スタイルのユニット化定着を目指し、安全且つ個々のペースに沿った支援を確立させていく。
  - ・中庭イベントスペースの活用と季節に合わせたお楽しみイベントの実施。（お茶会の内容充実:歌、寸劇など）
  - ・ホームについては栄養士の立てた献立を中心に、季節感や健康管理上の考慮もしつつ利用者の希望を取り入れた豊かな食事提供を行なう。
- (4) 介護予防、介護支援技術の向上
- ・PT(理学療法士)やST(言語聴覚士)を招聘し、予防介護・生活リハビリの視点でのリハビリメニューの実施やコミュニケーション・嚥下障害の軽減、改善を目指す。又、現場支援員も支援の知識・技術を磨き、経験を重ね、自らより良いアイデアを生み出していく。
  - ・介護技術マイスターの育成を行ない、日常的に技術の伝達をすることで支援員個々の介護技術向上を目指す。
- (5) 日中活動の充実
- ・利用者のニーズを踏まえたデイケア活動は、介護予防運動指導員資格を持つ支援員の専門性を活かしながら、その内容の充実を図る。
  - ・通所室の利用者については引き続き利用者やご家族のニーズに合った活動の提供を進める。
  - ・作業から余暇中心の生活移行に伴ない、日常的且つ継続的な楽しみの提供を図る。
  - ・個別のニーズに合わせ、相談支援専門員と密に連携し外部事業所の利用を行う。
- (6) 危機管理体制の充実
- 1) 身体拘束
    - 対象者ゼロを維持するため、拘束を必要としない支援方法について継続して考える。
  - 2) 喀痰吸引関係
    - ・個別の事案毎に「医療的ケア委員会」を設置し、日常的課題や安全確保等の体制を確立する。
  - 3) 防災・防犯関係
    - ・地震防災対策強化地域にある施設として地震や火災、その他自然災害に備えた防災体制拡充実させるとともに、寮独自の防災マニュアルに基づく多様な訓練を実施し、実際の有事の際の実効性を高めておくと共に、緊急時に必要な水、電気、食料等の確保対策を強化する。
    - ・不審者の侵入等防犯対策を強化する（夜間戸締りの徹底、巡視の強化等。他、防犯カメラなど有効と思われる防犯機器類の導入についても、引き続き検討を進める）
  - 4) リスクマネジメント
    - ・危機管理委員会を中心に、想定される様々なリスクに対する日頃の備え（予防活動、訓練）及び発生時の措置や再発防止対策等を行う。
- (7) 苦情解決体制の整備・充実
- 1) 第三者委員が行事や利用者自治会へ参加する機会を積極的に設けることにより、利用者との懇談や提言の場を確保する（最低1人年2回）
  - 2) 月2回の利用者自治会の場で積極的に苦情・要望等を受け、申出者に早急確実な対応を図り、利用者満足度の向上に努める。利用者自治会は利用者同士の意見交換の場と位置付け、その場面への支援を行っていく。
  - 3) ホーム苦情解決委員についても定期的に訪問し利用者との相談や提言の場所を確保する。
  - 4) 職員一人一人が、日頃の何気ない会話などから利用者の思いをくみ取る「気づき」の醸成に努める。

## 2. 施設運営の方針

- (1) 中・長期的な施設運営について
- 施設の重点計画及び第2期中期計画に則り、各種事業を進める。年度ごとに事業内容の検証や進捗状況の確認を行い、円滑な運営に努める。
- (2) 施設経営の安定化
- 1) 入所支援事業
    - ・昨年度3月より定員40名に変更。今後はその維持を目指す。欠員に対しては①現SS利用者のサービス移行（待機者男女各1名）②喬木共同生活事業部から利用者やご家族の意向、介護度等を勘案し、候補者調整を進める③圏域ニーズの中から候補者調整を進める…以上を積極的に進め、適時の対応を可能にしておく。
  - 2) 生活介護事業
    - ・定員60名を継続。必要な職員数を確保し、人員配置加算1.7:1の実現に向けて、高齢者の

スピード感に合わせたきめ細やかで手厚い支援を実施する。

・通所のみならず入所も含めた生活介護事業の枠内でパート職員も含め、効率的且つ効果的な配置をし、より利用者のニーズ、暮らしに合った日中活動の提供を実現する。

### 3) ショートステイ事業

・利用率の高い週末に手厚い配置を行う他、平均利用者数 70%（昨年度 3 床⇒4.2 床）アップを目標値とする。候補者は 1）の②及び③をメインに調整を進める。

### 4) 共同生活事業

・4 ホームの整理縮小を念頭に、非効率で消防設備等設備面に課題を抱える新賀ハイツ（借用期限 H31.9.30）の今後の運営について、30 年度中に方向性を定める。

・入所サービス等への移行を視野に、特に介護度や夜間見守りの必要な方について地域生活の継続性を診断する。

・サービス管理責任者の変更により、引き継ぎ作業を円滑に行う。

### 5) 相談支援事業

・相談支援専門員の専任化に伴い、中立公平な立場からの充実した支援を行う。

### 6) 市町村受託事業

・相談支援専門員を通じて地域ニーズの把握に努め、市町村受託事業等（タイムケア・ショートステイ・相談支援事業など）で地域貢献に資する。

### 7) 拠点区分運営協議会

・関係性をさらに強化し、地域や利用者、家族などからの第 2 期中期計画等の施設運営に対する積極的な意見聴取に努め、運営の安定化に資する。

## (2) 公益的な取り組み

・災害時の指定福祉避難所の機能強化を進めるに当たって、区との合同防災訓練（5 月又は 6 月）に区内在住の知的障害者（児）にも参加の声掛けをし、福祉避難所としてのニーズの把握と取組の足掛かりをつける。

## 3. 施設整備

### (1) 施設整備

1) 本体及び通所の設備等の改修については、重要度、緊急度等を勘案のうえ中期計画に基づき実施する。

2) 固定資産等の更新・修繕については、耐用年数の経過、性能の状況、効率性、必要性、緊急性、コストパフォーマンス等を勘案・検討の上実施する。特浴用ストレッチャー購入(50 万円) 通所室トイレ、シャワー室修繕工事(50 万円)

### (2) 生活環境の整備

1) 介護度の上昇や感染症対策などで利用者の大きな楽しみの一つである外出がままならない中、居ながらにして和める環境作りの為のイベントスペース設置（花壇や車いす通路の整備等）や将来のユニット化も視野に、支援動線の効率化の為の南北棟間の連絡通路の設置を行う。500 万円（町村会補助金 30 万円）

2) 定員減による空部屋を再編し、プライバシーの保持や介助のし易い一人部屋を設ける。

## 4. 職員の研修・人材育成

(1) 「人権」「感染症対策」「意思決定支援」「介護技術」を柱に各種研修を実施する。

(2) 研修は①OJT(業務内研修)②OFF-JT(業務外研修)③SDS(命令外自己研鑽)を柱に計画する。特に OJT については新任者のみでなく、中堅・ベテランを問わず指導対象とする。

(3) OJT リーダーを配置し、事業所の理念・方針に沿った育成を推進する。

(4) 業務外研修ではキャリアパスに応じ内容を精査した上で積極的な派遣を行う。

(5) 職務基準に合致した資格取得を推進していく。介護福祉士等の資格取得及び業務に必要な資格取得については、年間の研修計画に沿って支援する。

(6) 交通安全のマナーの順守を徹底するため、送迎職員・世話人を含む全職員対象に運転適性検査や安全運転に関する職場研修を行う。

(7) 自閉症スペクトラムや強度行動障がい等への支援の専門性向上と日常的な支援への活用を図る

ための取り組み(各種研修参加、臨床心理士を招聘しケース検討会の開催等)を行う。

## 5. 地域支援・交流

### 施設機能を活かした地域交流の推進

- (1) 次世代の障がい者福祉に対する理解促進(保育園交流、中学生の体験実習受け入れ等)
- (2) 人材育成及び第三者評価者としての実習生やボランティアの積極的な受け入れ
- (3) 南信州広域連合自立支援協議会への参加と地域生活拠点面的整備について必要な場面での協力
- (4) 可能な範囲での地区行事等への参加
- (5) 福祉避難所の機能強化による地域貢献事業の具体化を推進(具体案は2. 施設運営の方針(2) 公益的な取り組みに記載)

## 6. 利用者家族・家族会との連携

- (1) 家族会の円滑な運営を支援するため、役員会及び総会を通じて施設運営、福祉制度情勢及び圏域内のニーズに関する情報交換を積極的に行う。
- (2) 家族会事業計画に基づく年間行事を通じて、家族間交流の促進を図るとともに、当寮の運営に関する協力体制を堅持する。
- (3) 家族の施設や法人運営に対する意向は、拠点区分運営協議会を通して反映されるよう努める。
- (4) 任意団体家族会連合会の運営に協力する。

## 8. 年間行事予定表

月	行 事 内 容			参 加 行 事 (地域・関係団体等)
	入所・生活介護事業	共同生活事業	家族会事業	
4	お花見 4/ ( )	GH 担当者会議 4/17(さんとぴあ)	家族会・総会: 4/ ( )	伊久間諏訪社祭典
5	端午の節句 伊久間区合同防災訓練	GH 利用者交流会 5/13(松川青年の家)		
6	初夏の味彩 6 / ( ) 第 1 回運営協議会 6/ ( ) 肺結核検診 6/29 (金) AM	圏域世話人研修会 6/29(さんとぴあ)	①家族会環境整備 6/ ( )	
7	七 夕 夏祭り 7/22(土)予定 通所家族懇談会 7/ ( )		家族会連合会総会(幹事須坂悠) 7/ ( )	サマーチャレンジボランティア7/ ~
8	暑気払い			
9	長寿の祝い9/( ) 総合防災訓練 9/( ) (非常時の食事提供訓練を含む)	世話人研修会 9/11(さんとぴあ) GH 担当者会議 9/22(さんとぴあ) 喬木村防災訓練		
10	第 28 回りんどう祭 10/ ( ) 利用者集団健康診断 サツマイモ掘り交流会		②家族会環境整備 10/ ( ) 第 28 回りんどう祭 10/ ( )	飯伊地区レクリエーション大会 9/ ( )⇒不参加? わの里まつり
11	秋の味彩			県知障協福祉大会(中信) 11/( ) 喬木村文化祭

12	クリスマス会	圏域世話人研修会 12/4(さんとぴあ)	③家族会環境整備 12/( )	
1	新年会 ほんやり 防災訓練(夜間想定)			
2	節分 春の味彩	GH担当者会議 2/22(さんとぴあ)	家族会年度末総会	
3	ひな祭り 防災訓練(夜間想定) 第2回運営協議会・虐待防止委員会			
随時	【余暇】・グループ旅行・各種レクリエーション 【食生活】・おやつバイキング・中庭茶会・栄養講和 【医療】・嘱託医検診(1回/月)・PT/ST指導( /年)・インフルエンザ予防接種(月) 【自治会】・定例会/棟別和会(1回/月)	・世話人会議(1回/月)	・他施設家族会との交流(懇談会)	



## 平成30年度 はらむら悠生寮 事業計画

### 本年度の基本方針と目標

はらむら悠生寮は、平成30年度の法人基本方針及び第二期中期計画に基づき、本年度の目標を次のとおりとする。

1. 第二グループホームを建設し、速やかに悠楽を移転する。
2. 生活介護事業は利用者のニーズを見極め、通所系サービスと本体系サービスを的確に使い分け提供する。
3. 施設及び職員の専門性を発揮する地域貢献事業を更に具体化していく。

### はらむら悠生寮の宣言

ひとつ 暴力、虐待はしません。許しません。

ひとつ 安全、安心、快適な施設作りをします。

### 今年大切にしたいこと

利用者、職員ともに笑顔があふれ、「ありがとう」の言葉が行き交う施設にします。

### 具体的な取り組み

#### 1. 支援サービスの向上

(1) 利用者本位の福祉サービスに努める

- 1) 利用者のお考えやお気持ちを大切にした支援を常に心がける。
- 2) 個別支援計画を基に的確、柔軟に介護支援サービスを提供する。
- 3) サービス提供記録等は正確性、整合性を含め適正に管理していく。

(2) 権利擁護及び虐待防止

- 1) 「職員行動規範」を身近に置き、役職員の職務姿勢を常に振り返る。
- 2) 権利侵害を防ぐため、職員同士が互いに注意・抑止し合える職場風土をつくる。
- 3) 虐待を含めた権利侵害が発生した場合は法人の規定に則り、関係機関への通報等を含め適正に対処する。
- 4) 虐待防止委員会を開催し、広角的視野と透明性を機能させていく。
- 5) 3カ月ごと虐待防止推進委員を指名し、防止及び改善活動を展開していく。

(3) 健康の維持と予防介護

1) 健康管理

- ・ 日常の健康観察を通して疾病等の早期発見に努め、緊急対応・医療行為等に的確に対処する。
- ・ 通所・短期入所利用者等の健康情報をご家族と共有し健康管理を行う。
- ・ 自治会・利用者朝会などの機会を通じて、食事・運動・睡眠・衛生等、大切なことを利用者に伝えていく。

- 2) 感染症等の予防
  - ・ 個人衛生（手洗い・手指消毒・うがい）や健康管理、及び施設環境の衛生管理などの対策を日常的、定期的に行い感染症を予防する。
  - ・ 圏域情報、家庭情報を速やかに、的確に把握し利用調整及び罹患者の隔離看病を厳格に行う。
- 3) 食生活
  - ・ 調理業者との連携により、疾病、加齢、障がい等に合わせた食事の個別対応力を高める。
  - ・ 豊かで、楽しみの持てる食生活を大切に食事を召し上がっていただく。
- (4) 介護予防、介護支援技術の向上
  - 1) 要介護者の日内変動を的確に見極め、効果的に支援する。
  - 2) チームプレーを常として事故や誤用を未然に防ぎ、要介護者の快適性や安全性を高める。
  - 3) 利用者・職員の双方に安全な介護技術を外部資源も利用しつつ習得する。
- (5) 日中活動の充実（活動の支援）
  - 1) 暮らしに楽しみや張り合いを感じられる日課を提供する。
  - 2) 働くこと、身体を動かすことに喜びや生きがいを感じられる種目を工夫していく。
  - 3) 日中は居室から出て過ごせるように日中施設環境を整える。
  - 4) 自閉症、発達障がい等のある利用者には、個別性を優先した種目を提供する。
- (6) 危機管理体制
  - 1) 身体拘束
    - ・ 身体拘束等防止委員会を開催し、その必要性和解除についての的確に判断していく。
    - ・ 介護、援助方法を日常的に見直し、拘束抑制の軽減と防止に努める。
  - 2) 喀痰吸引関係(医療等行為)
    - ・ 医療的ケア安全委員会を設けて規定に基づき行う。
    - ・ 法人並びに養成機関を通して、特定行為従事者を養成していく。
  - 3) 防災（地震、雪害、風水害対応含む）
    - ・ 大規模災害を想定した実践的な訓練を行い、机上においても想定訓練を重ねていく。
    - ・ 事業継続計画は実災害を検証しつつ順次見直しをしていく。
  - 4) リスクマネジメント
    - ・ 事故報告による暫定対策の精度を高めるために経過報告を確実に行う。
    - ・ 事故の予知、予見力を高めるために再発ケースの検証を日常化する。
    - ・ 感染症対策、交通安全対策、労働安全対策を講じていく。
- (7) 苦情解決の取組
  - 1) 受付けた苦情や相談は、職員会等で報告・検証を行い、職員全体で共有した上での的確な回答を示していく。
  - 2) 回答後の結果について日常的に経過を確認し、申出者の満足度を高める支援につなげる。
  - 3) 第三者委員 2 名による相談受付の機会を通年、均等に設けていく。

## 2. 施設運営の方針

### (1) 中・長期的な施設運営について

- 1) 圏域の関係機関を通じて、利用者情報を的確に把握した上で、各事業ともに中・長期的な計画に反映させる。
- 2) 安定した雇用を重ね、事業展開に十分な職員を確保していく。

### (2) 経営安定化の具体的取り組み

- 1) 各事業の稼働率等により事業の継続性及び職員体制の適正を見極めていく。
- 2) 建物、設備等の維持管理を的確に行い、効果的かつ計画的に資金を運用していく。

### (3) 運営協議会の開催

施設運営の適正と透明性を見計らっていただくために、3月・6月を定時に適宜開催する。

## 3. 施設整備

### (1) 施設整備

- 1) 第二グループホームの建設（9月末竣工目途） 75,000千(外構・初度調便等含む)
- 2) 本館壁紙 破損著しい面 1,000千
- 3) 厨房トイレ自動水洗改修 165千
- 4) 居室床張替 6部屋 400千
- 5) 常温配膳車 300千
- 6) 施設及びグループホームの点検を月1回行い、不具合や修繕箇所の早期発見に努め対処する。

### (2) 生活環境の整備

- 1) 破損箇所及び危険箇所は速やかに修繕し、美観・緩衝を整えていく。
- 2) 心身機能の変化に遅れることなく、住環境・機器などを整えていく。

## 4. 職員研修・人材育成

- (1) 職場内研修を計画的、且つ鮮度感を持って毎月行う。
- (2) 介護福祉士等特定の資格取得及び研修は負担軽減含め積極的に手当とする。
- (3) R X組研修を通して介護技術の向上と業務改善を進めていく。
- (4) 職員の定着率を高めるために、新人等に対する教育訓練は個別に丁寧に行う。

## 5. 地域支援・地域交流

- (1) タイムケア等受諾事業は、在宅障がい児・者の要望に応じ対応可能な範囲で受け入れる。
- (2) 原村、近隣市町村を中心に相互行事を通して住民交流をする。
- (3) グループホーム利用者は所在地域の公役を果たすと共に積極的に地域生活を営む。
- (4) ボランティアとの相互理解を含め、発展的な関係を続けていく。

### (5) 地域貢献活動

- 1) サービス利用適用外(給付外・受給量超)の方々に特に昼間のサービスを補完的に提供します。
- 2) 在宅障がい者の私的相談にも応じ、適切なサービス利用につなげるように支援します。
- 3) 災害時に地域被災者向けに人的、物的支援を可能な限りします。
- 4) 施設及び職員の専門性を公開研修などで地域に発揮していきます。

## 6. 業務改善

- (1) 労働安全を第一に職場環境の見直しを月一回行います。
- (2) 個の業務に偏ることが無いように、効果的に組織力を高めます。

## 7. 利用者家族及び家族会との連携

- (1) 家族会事業の参加への案内を引き続き、工夫をしていく。
- (2) 施設及び運営の内容を分かり易く、会議・通信物等を通してお伝えする。
- (3) 施設運営に不信、不安が無いように連絡や報告事は分かり易く、丁寧に行っていく。
- (4) 運営協議会や第三者委員を通して一体的に家族会が関われる仕組みを作っていく。

## 8. 年間行事計画(別紙)

平成30年度 年間行事予定表

はらむら悠生寮

月	施設	グループホーム	家族会
4	お花見・歓迎会 虐待防止委員会 4/21(土)	お花見	家族会総会・職員歓送迎会 4/21(土)
5	端午の節句(菖蒲湯) 一般健診・5/10(木) 避難訓練 諏訪地区障がい者スポーツ大会	諏訪地区障がい者スポーツ大会 避難訓練	
6	ふれあいスポーツデイ 眼科検診 運営協議会	原村一般検診	環境整備・第1回役員会 6/23(土) 後援会定期代議員会 連合会会長会
7	七夕 障害者FD大会	障害者FD大会	連合会交流・研修会 7/7(土) ～7/8(日)当番施設 須坂悠生寮
8	夏祭り 8/1(水)	夏祭り 8/1(水)	
9	自治会敬老会 諏訪地区レクリエーション大会 県障がい者スポーツ大会 9/ (日) 原村敬老会	諏訪地区レクリエーション大会 県障がい者スポーツ大会 原村敬老会	環境整備・第2回役員会 9 /29(土)
10	第25回りんどう祭 10/14(日) 避難訓練	第25回りんどう祭 10/14 避難訓練	第25回りんどう祭の協力 10/14(日) 野菜販売・豚汁他
11	収穫祭 インフルエンザ予防接種 原村文化祭	インフルエンザ予防接種 原村文化祭	
12	環境整備漬物会 12/1(土) クリスマス・忘年会 12/25	クリスマス会 12/25	環境整備・漬物会 12/1(土)
1	新年会 1/16(水) どんど焼き 1/15(火)	新年会 1/16(水) どんど焼き 1/15(火)	
2	節分 2/4(月) 子宮がん検診 運営協議会		知障協南信支部施設長保護 者会長会 三役会 2/22(金)
3	雛祭 3/4(月) 日中活動ご苦様会 3/13(水) 避難訓練		手作りご馳走会(ぼた餅他) 3/16(土) 第3回役員会 3/16(土)
随 時	グループ旅行 歓送迎会・各種同好会・土曜教室 ひ だまり喫茶・各種レクリエーション(鑑 賞他)	グループ旅行 歓送迎会・各種 同好会・土曜教室・ひだまり喫 茶 各種レクリエーション(鑑 賞他)、各ホーム親睦会	農場管理(耕作・定植・除草) 職員と懇談会 福祉大会

## 本年度の基本方針と目標

須坂悠生寮は、平成 30 年度の法人基本方針に基づき、本年度の目標を次のとおりとする。

1. 須坂悠生寮第二期中期計画に沿って 1 年目の事業実施に取り組む。
  - (1) 生活介護事業について新規通所利用者の増加（毎年 1 名以上目標）を図る。
  - (2) 施設入所事業、短期入所事業は、利用率の維持と新規利用者の獲得に取り組む。地域のニーズと緊急受け要請、地域基盤整備事業等に向けて調整を図れるよう関係機関との連携を図る。
  - (3) 共同生活事業について高齢化等による支援のニーズに対応するため、支援体制の強化と設備整備を順次すすめる。
2. 全職員で権利擁護に取り組む。日常を振り返る機会を定期的に設け、普段の何気ない支援から虐待の芽を取り除く。
3. 快適な居住環境づくりについて、清潔、安心、安全な暮らしの日常的な点検を随時行う。高齢利用者の日常の健康管理と変調時の早期対応に努める。
4. 当寮が地域資源の一つとして社会貢献をしていけるよう常に外に目を向けていく。

## 具体的な取り組み

### 1. 支援サービスの向上

#### (1) 支援姿勢

- 1) 一人ひとりの想いを大切に、意思決定を尊重した支援を心掛けます。
- 2) 笑顔を大切に、穏やか丁寧な対応を心掛け、気持ち良い支援を提供します。
- 3) 個々の支援方針を共有し満足度が得られる支援を心掛けます。

#### (2) 権利擁護・虐待・身体拘束の防止

- 1) 虐待防止委員会を開催し虐待防止に組織的に取り組む。
- 2) 権利侵害防止のため、職員同士がお互いに指摘あえる職場環境をつくる。
- 3) 虐待については発見次第直ちに関係機関への通報をし、発生後は速やかに検証し再発防止に努める。
- 4) 障がい特性や認知症などについて、研修等を通じ知識や技術の習得を進め、不適切な対応の根絶を目指すと共に、より良い支援サービスの提供に取り組む。
- 5) 身体拘束解除を促進するために、日常的に介護・援助方法を見直すと共に、拘束記録の書式等の検討も行なう。
- 6) 自己評価やアンケートを通し各職員の支援姿勢の振り返りを定期的に行う。

#### (3) 健康の維持増進

##### 1) 健康管理

- ・研修を通して、職員の医学的知識の向上・習得に努め、体調の変化に気づく事ができるようにする。
- ・「感染症及び食中毒の予防及び蔓延防止」の指針に基づき、感染予防・対策に努める。
- ・日々の健康観察を通して疾病等の予防、早期発見に努め、必要な治療等が受けられるよう対応する。

- ・入所及びグループホーム利用者はもとより、ショートステイ・生活介護（通所）利用者の情報収集と健康状態を把握し、医療的ケアを適切に行う。

## 2) 食生活

- ・調理業者と連携を強化し、個々のニーズに対応した食事提供に努める。
- ・食の楽しみとして季節毎の行事食や、利用者の希望を叶えるバイキングや希望メニュー等を実施する。
- ・食事の適温提供の為の方法の模索・検討をおこなう。

## (4) 介護予防・介護支援

- ・要介助者の実態を的確に把握し、支援サービス会議などを有効に活用しながら、効果的なチーム支援を心掛ける。
- ・共生型サービスの提供を視野に、介護技術、接遇技術の向上を目指す。
- ・身体状況に応じた介助方法と利用者・職員双方に安全な介護技術の習得を目指す。
- ・専門家の指導、日常の支援から機能維持・増進のためリハビリ・ハビリを実施する。
- ・医療的ケア・ターミナルケアを含め利用者の状況についてご家族との連携を強化し、利用者、ご家族ともに安心いただける支援の環境づくりを目指す。

## (5) 日中活動の充実

- 1) 楽しみや喜び（生きがい）を基本に、幅広い活動を提供する。
- 2) 地域利用者の受け入れを促進するため、魅力ある活動提供を目指す。
- 3) 広く生活全般に渡る支援ニーズに柔軟に応える。

## (6) 防災・防犯関係

- 1) 様々な災害を想定した訓練を繰り返す中で事業継続計画がより実効性のある内容となるよう見直し、備品等の更新を随時行う。
- 2) 地域及び関係機関との協働のもと体験型の防災訓練を継続実施していく中で協力体制を強めていく。
- 3) 職員個々の防犯意識向上と協力体制の共有確立のための訓練を取り入れる。合わせて関係設備、備品の整備に努める。

## (7) リスクマネジメント

- 1) リスクアセスメントや危険予知の取り組みを通じ、安全な暮らしの提供に努める。
- 2) 事故、ヒヤリ報告の検証を定期的に行い再発防止と課題解決に努める。
- 3) ご家族や関係機関への連絡を滞りなく行えるよう基準や手順の整備に努める。

## (8) 苦情解決体制の整備

- 1) 利用者からの苦情・要望等に真摯に対応し、業務改善・サービス向上、権利擁護意識向上に努め、くらしの満足度向上に努める。また、そのための苦情受付から解決、経過観察までの流れを可視化し、全職員が共有できるようシステムの整備を進める。
- 2) 第三者委員招聘の機会を増やし、利用者との懇談や施設への提言の場を設けていく。

- 3) 利用者との日常的な関わりのなかから、利用者の想いを代弁できるような「気付き」の重要性を再認識していく。

(9) 自治会活動

- 1) 利用者が主体的に自治会活動に関わることができるようサポートする。
- 2) 自治会定例会にて、利用者個々の苦情や要望を聞き取る他、楽しみあるくらしの実現に向け協働する場とする。

## 2. 施設運営の方針

(1) 中・長期的な施設運営について

- 1) 共生型サービス等の事業についてのプロジェクトを組織して対応を検討していく。
- 2) 現事業の方向性について継続的な検討とこの先の人員体制についての対応・シミュレーションを行っていく。
- 3) 運営協議会において、事業計画、予算や地域貢献事業等についてのご意見をいただき、施設運営に反映させる。

(2) 経営安定化の具体的取り組み

- 1) 各事業、法令を遵守し適正な支援サービスを提供する。
- 2) 現事業の入所 50 名、生活介護 55 名の利用率を当面維持する。短期入所利用者の新規開拓を強化する。全事業にわたり利用者を確保するため、関係機関及び他事業所、医療機関等との関係作りに努める。
- 3) 職員の安定的雇用体制と働きやすい職場環境の構築を目指す。
  - ・安全衛生委員会等が中心となりメンタルヘルス体制を整備する。
  - ・働きやすい職場作りのため、業務の見直しや休憩、有給休暇取得を推奨する。
  - ・お互いを認め相互に助け合える気持ちを大切にできる組織作りを目指す。

## 3. 施設整備

- (1) 初期施設設備の老朽化に伴う機械設備の修繕・整備、入れ替えを第二期中期計画及び長期計画に沿って実施する。
- (2) 日常の保守点検を実施し、全職員が異常の早期発見と早期対応を可能とする。
- (3) 衛生環境や感染症対策としての床のリノリウム張替え事業を継続する。
- (4) 利用者の高齢、重度化に伴い、トイレ等、身体・介護状況に適う環境整備をすすめる。

## 4. 職員研修・人材育成

- (1) 定期的な啓発を通し礼節・虐待防止・意思決定支援等への関心を高め社会人及び障がい福祉に携わる専門職としてモラルある人材の育成に努める。
- (2) OJTを組織的、重層的に推進し、組織力・支援力の向上及び職員の職場定着を図る。
- (3) 法人現任研修や外部研修など専門的な知識や技能習得・資格取得研修等に向けて、計画的に取り入れ平準化させていく。また、伝達研修を通じ現業へのフィードバックを図る。
- (4) 実施された職場内研修については随時効果測定を行い、研修内容の精度を高めていく。



## 5. 地域支援、相談支援事業

- (1) 共同生活事業部の円滑な運営を行う。
  - 1) 高齢化に対応するため、夜間の職員配置を検討し、安心安全に暮らせるように対応する。
  - 2) 利用者の実態に即した住環境の整備を随時行う。将来的展望についての検討を重ねる。
  - 3) 防犯、災害に対応できうる防災訓練と啓発活動を実施する。
  - 4) 個別支援計画を作成するにあたり、サービス等利用計画との整合性や連携を図る。
- (2) 短期入所事業について、新規利用者の開拓とともに質の高い支援を心掛け、安心安全に利用していただけるように努める。
- (3) 圏域自立支援協議会、障害者支援センター、関係機関との連携に努め、障がい者等の地域生活を支援する。
- (4) 特定相談支援業務では、利用者の意思決定の尊重、現場職員との協働、関係機関との連携を心掛ける。
- (5) 地域拠点事業整備にともない地域の社会資源として必要な役割を果たす。

## 6. 地域交流 ・ 社会貢献

- (1) 地域貢献に資するため、運営協議会や外部団体との相互理解を深めるため、交流の機会を設けていく。
- (2) 利用者の日々の暮らしづくりの一貫として、個人・団体ボランティアの新規開拓と定着を図り日課に組み込む。
- (3) 米子地区の一員として、住民と交流を図るとともに地域活動に積極的に参加・協力する。
- (4) 地域公益事業として、地区・社協と連携して地域の各種教室等の開催場所として地域交流ホームを提供する。
- (5) 生活困窮の方への物資提供について支援センター、まいさぼとの連携で支援協力する。

## 7. 利用者家族及び家族会との連携

- (1) 家族会事業が円滑に活動できるよう連携を図る。
- (2) 役員会や総会などの機会を通じ福祉情勢や施設運営について情報の発信に努める。
- (3) 懇談会や行事、日々の家族への連絡を通して相互の理解を深める。
- (4) 当番施設として、家族会連合会総会の開催をバックアップする。

## 8. 年間行事計画 (別紙)

平成 30 年度 年 間 行 事 予 定 表 須坂 悠生寮

月	30 年度 内 容			
	寮	家 族 会	共同生活	参 加 行 事
4	お花見/19 (木) 家族交流開始日/22 (土)	家族会総会 /22 (土)	お花見	
5		県知障協総会		米子不動尊縁日 /1 (火) 県知障協総会
6	北信レクリエーション (当番) バイキング食 /13 (水)	家族会環境整備・役員会 /10 (土)		
7	七夕 /7 生活習慣病検診 / (水)	家族会連合会総会 /7(土)~8(日)	花火見学	米子神社祭礼 / ( )
8	開寮記念日/1 (水) 夏季家族交流開始日 /11 (金)			
9	長寿を祝う会 りんどう祭9/29 (土) 合同防災訓練 (米子地区) / (土)	家族会環境整備・役員会 /22(土)		
10	グループ旅行等 そば打ち会 /24 (水)			須坂市ふれあい広場 /14 (土)
11	インフルエンザ予防接種	家族会漬物作り/17(土) 家族交流お楽しみ会	インフルエンザ 予防接種	県知障協福祉大会/ ( )
12	クリスマス・忘年会 /25 (火) 冬季家族交流開始日/27 (水)		忘年会	
1	新年会,どんど焼き/17( )		新年会	
2	節分 /3 ( ) バイキング食 /14 ( )		節分	
3	ひなまつり /3 ( )	家族役員会・職員との懇 親会 / (土)		県知障協総会 / ( )
備 考	グループ旅行・グループレク サンアップル移動教室 余暇の日 (毎月 1 回) 音楽・芸術鑑賞 (随時) 内科検診 (毎月 1 回) 歯科検診 (6、12 月) PT 指導 (6、10、2 月) 避難訓練 (年 4 回)	運営協議会 家族会連合会活動 法人及び後援会への協力 県知障協活動参加	避難訓練 (年 2 回) 旅行 地区行事	各悠生寮の行事 須坂市 (市・社協) 行事 米子地区各種行事 サンアップル行事 北信レクリエーション

